

本店・支店のご案内



**本店**  
京都市中京区堺町通三条下る道祐町140  
TEL 075-221-0507 FAX 075-221-0530

三条支店



京都市中京区三条堀町東入る  
榎屋町69  
TEL・FAX共通 075-223-0171

清水支店



京都市東山区清水3-334  
TEL・FAX共通 075-532-5700

四条支店B1



京都市下京区東洞院東入る  
立売西町66 (京都証券ビルB1)  
TEL・FAX共通 075-221-2604

四条支店B2



京都市下京区東洞院東入る  
立売西町66 (京都証券ビルB2)  
TEL・FAX共通 075-211-7738

コーヒーサロン支店



京都市下京区四条通高倉西入る  
立売西町79 (大丸京都店1階)  
TEL・FAX共通 075-241-7407

ポルタ支店



京都市下京区東塩小路町858-1  
(京都駅前地下街ポルタ)  
TEL・FAX共通 075-343-2380

くずはモール支店



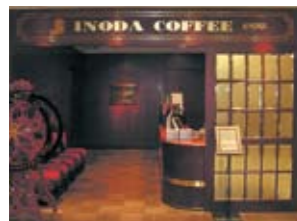
大阪府枚方市楠葉花園町15-1  
(くずはモール2階専門店街)  
TEL・FAX共通 072-809-0751

広島支店



広島県広島市南区松原町9-1  
(JR広島駅南口福屋広島駅前店B1)  
TEL・FAX共通 082-506-2101

札幌大丸支店



北海道札幌市中央区北5条西4丁目  
7番地 (大丸札幌店7階)  
TEL・FAX共通 011-271-7712

札幌紀伊屋支店



北海道札幌市中央区北5条西  
5丁目7番地  
(Sapporo55ビル紀伊屋書店札幌本店内2階)  
TEL・FAX共通 011-219-6555

Sapporo55 Café



北海道札幌市中央区北5条西  
5丁目7番地  
(Sapporo55ビル1階)  
TEL・FAX共通 011-219-6555

東京大丸支店



東京都千代田区丸の内1-9-1  
(大丸東京店8階)  
TEL・FAX共通 03-3211-0033

工場・発送センターのご案内

焙煎工場

京都市伏見区竹田中島町69-1  
TEL・FAX共通 075-643-5592

ケーキ工場

京都市中京区堺町通三条下る道祐町146  
TEL・FAX共通 075-254-2491

発送センター

京都市中京区堺町通三条下る道祐町146  
TEL 075-254-2488  
FAX 0120-86-0507

# INODA COFFEE

Corporation Guide Ver.2009



株式会社イノダコーヒ

[2009・会社案内]



株式会社 **イノダコーヒ** (本部)

〒604-8118 京都市中京区堺町通三条下る道祐町140  
TEL:075-241-0915 FAX:075-252-5978  
<http://www.inoda-coffee.co.jp/> [info@inoda-coffee.co.jp](mailto:info@inoda-coffee.co.jp)



## ごあいさつ

当社は創業1940年、会社設立1958年という歴史のある会社です。京都には創業何百年というお店が沢山あり、当社が「老舗」と称するにはおこがましいところですが、それでも68年の歴史があります。心からお客様をお迎えするにはマニュアル通りではできません。お客様は一人ずつ異なりますので、一人ひとりの個性があってこそ「おもてなし」と考えています。当社では「してはいけないこと」ではなく、「してもらいたいこと」を社員に教育をします。自らが明るく、楽しく、元気でないとお客様をおもてなしすることはできないと考えているからです。また、良い伝統を守りつつ、新しいことにも積極的にチャレンジし、当社が京都の文化をリードしていくという自負を持ち続けたいと思っております。

代表取締役会長  
猪田 浩史



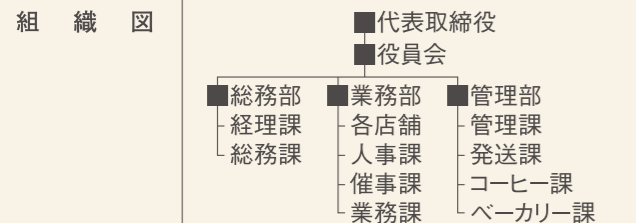
伝統を守りつつ、新しいことにも積極的にチャレンジするという従前の方針を強く推し進めていきたいと思っています。これまで多くの皆さんに親しんでいただいているコーヒーをはじめとする当社メニュー或いは商品に、より磨きをかけて、お客様に、イノダの味、そして雰囲気をおもてなしできるように努めていきたいと考えています。

代表取締役社長  
藤原 正康



## CORPORATE PROFILE 会社概要

名称	株式会社イノダコーヒ
所在地	〒604-8118 京都市中京区堺町通三条下る道祐町140番地 TEL.075-241-0915 FAX.075-252-5978
創業	1940年
設立	1947年 コーヒーショップ開業 1958年 有限会社イノダコーヒ設立 1995年 株式会社イノダコーヒ組織変更
資本金	3,000万円
代表者	代表取締役会長 猪田 浩史
従業員数	170名
営業品目	喫茶およびレストラン/各国産コーヒー自家焙煎及び販売/輸入食器・輸入食品の販売/ケーキ及びパン自家製造販売/オリジナルブレンドコーヒー・オリジナル商品の通信販売/全国出張販売/インターネット事業・オンラインショッピング
年商	22億円
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 京都支店 京都銀行 三条支店 京都中央信用金庫 堀川支店 商工組合中央金庫 京都支店
店舗数	京都市内6店舗・札幌3店舗・広島1店舗 大阪1店舗・東京1店舗



## HISTORY 沿革

1940年 6月	各国産珈琲卸売を開始
1947年 8月	コーヒーショップ(現本店)開業
1958年 5月	有限会社イノダコーヒ設立
1965年 12月	四条支店(現四条支店B1)開店
1967年 9月	本店拡張(新館)開店
1970年 3月	京都大丸にコーヒーサロン支店開店
1975年 9月	三条支店開店
1980年 11月	四条支店(現四条支店B2)開店
1983年 2月	京都駅前地下街にホルタ支店開店
1987年 3月	地方発送センター開設
1993年 6月	ケーク工場操業開始
1993年 7月	創業者 猪田 七郎 他界
1994年 3月	新社長 猪田 浩史 就任
1994年 3月	新ケーク工場完成
1995年 9月	資本金3,000万円に増資、同時に株式会社へ組織変更
1999年 4月	火災により本店焼失
2000年 3月	広島支店開店
2000年 7月	本店リニューアルオープン
2000年 7月	清水支店開店
2003年 3月	札幌大丸支店開店
2005年 4月	札幌紀伊國屋支店開店
2007年 6月	Sapporo55 Café開店
2007年 6月	くずはモール支店開店
2007年 11月	会長 猪田 浩史 就任 新社長 藤原 正康 就任
2007年 11月	東京大丸支店開店

## HISTORY

幸運が重なった。

猪田七郎は1940年に輸入食品の卸売りを開業したのだが、直後兵役に召集された。終戦後、彼が帰京した時に保存の良い状態で残されていた、数袋の生豆。それがなかったら現在のイノダコーヒは存在しなかったであろう。進駐軍の占領下にあつて物資が不足していた時代、代替品が横行する中で本物のコーヒーを提供する店として評判になり、文化人や町の旦那衆が集まるそこは、まさに「サロン」を形成していくことになる。

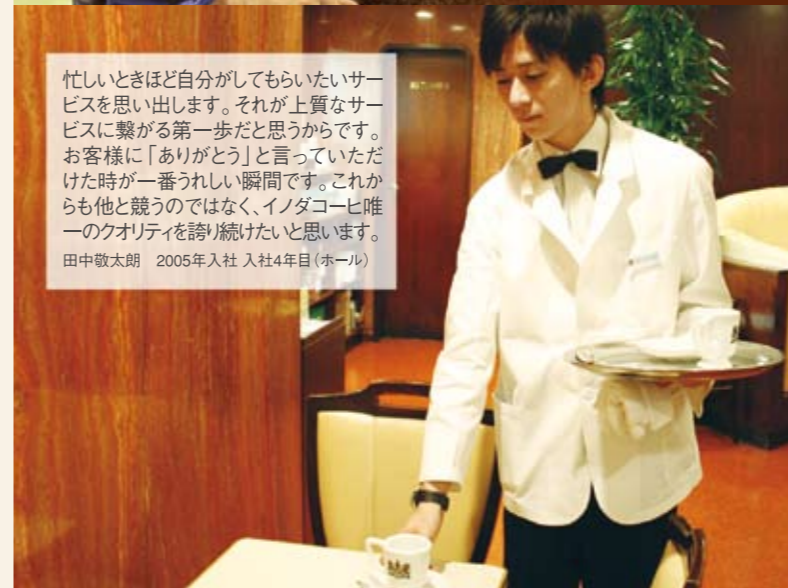
1952年に七郎は欧州を訪れている。その足跡を辿ると現在も受け継ぐべく「確固たる大人の世界」と「時代が求めた斬新」、当社の原点が見えてくる。その後の高度成長期の中、従来の喫茶店の常識を覆す店舗作りやメニューを取り入れた。時代を先取りしたそれらは多くの人に受け入れられ、イノダコーヒは高い評判を得た。

経済低成長の時代においても「良い商品は良い素材からしか生まれない」の信念から、本物を追求し「アラビアの真珠」をはじめとするオリジナルブレンドを開発する。これらの販売を通して、全国展開の礎を築いていった。その後も新商品の開発を軸に本格的に全国事業を展開し、現在全国に13店舗構えるに至る。



忙しいときほど自分がしてもらいたいサービスを思い出します。それが上質なサービスに繋がる第一歩だと思うからです。お客様に「ありがとう」と言っていただけ時間が一番うれしい瞬間です。これからも他と競うのではなく、イノダコーヒ唯一のクオリティを誇り続けたいと思います。  
田中敬太郎 2005年入社 入社4年目(ホール)

自分が作ったもので誰かに感動を与えることができる。それはレシピ通りにはかない、そこに気持ちがあれば与えることのできないものだと思います。おいしいって言葉を聞くことで自分の仕事に誇りが持てますね。  
早川未央 2006年入社 入社3年目(厨房)



美味しいものを食べていただきたいから一つ一つが真剣勝負です。「美味しかった」この一言が元気の源です。これからも一人でも多くのお客様に喜び満足いただけるような心を込めた商品作りをしていきたいと思っています。  
川崎真実 2007年入社 入社2年目(厨房)

新しさばかり追いかけないで、伝統を守りながら新しいものも取り込むこれがイノダの姿勢です。これからもお客様の笑顔のために、美味しいケーキ作りに励んでいきたいと思っています。  
左:長谷川美智子 2006年入社 入社3年目  
右:霞本彩 2008年入社 入社1年目(ベーカリー課)



## 海外研修制度

フランス・オーストリア・ベルギーの3ヶ国を研修の地として約10日間現地でご食に関する研修を行います。現地でもしか味わえない味や体験が帰国後の仕事や生活をより充実させる大きな第一歩になります。

